

大成町議会議長 高畑 實

大成町の新たな発展を期して、平成十七年九月一日新生「せたな町」として、スタートすることになりました。

明治二年久遠場所が、後志国久遠郡（九村）となり、明治十三年久遠・奥尻・太櫓・瀬棚の四郡役所が久遠郡に設置され、同時に戸長役場が開庁されました。

昭和三十年七月久遠村・貝取澗村が合併し、大成村となり、昭和四十一年十月町制を施行し、今日に至っております。

この間、高邁な識見のもと、時代の大きな苦難、幾多の難行を乗り越え町の未来について、議論を重ね、自然と調和した、住みよい豊かな町づくりにご尽力を戴いた町民みなさま、永年町政発展にご貢献いただきました、多くの先輩諸氏に対し、心から敬意を表し厚く感謝申し上げます。

これからの地方自治は、自己決定・自己責任の原則に基づく住民自治の確立が強く求められております。

少子高齢化社会の到来、多様化する住民ニーズへの対応、生活圏の広域化など、社会変化に対応することが肝要であり、このような時代背景にあつて、わが町の将来を見据えたうえで、合併を選択したところであり、町民とともに大きな夢のある地域を創造してまいりたいと考えております。

町民のみなさまには、合併後これまでのような行政サービスが維持できるのか、低下することがないのか、ということが最大の心配事であります。

それだけに、我々に課せられた責任と使命の重大性を痛感し、心意気を新たにしております。

今後とも、地域の要望や意見等を町政に届け、住民の安全と潤いのある住みよい「せたな町」のまちづくりをめざして、一生懸命頑張つてまいります。

終りに臨み、町民みなさまのご健勝、ご多幸と新生「せたな町」の輝かしい発展をご祈念申し上げ、ごあいさつと致します。

大成町教育委員会教育長 久保 一

平成十七年八月三十一日、先人達が築いた大成町百三十六年の歴史に幕を閉じ、九月一日大成町、瀬棚町、北檜山町の三町が合併して、新「せたな町」が誕生します。

大成町開庁（戸長役場が設置された明治二年）以来、明治、昭和、平成と三度目の大合併であります。

これによつて、幾多の変遷を経ながら脈々と続いてきた大成町の歴史、文化、教育に幕を下ろすことになりましたが、合併後においても未来に夢のある地域でありたいと願っております。

さて、教育に関わる歴史を繙くと、今から百二十五年前、明治十三年に現在の久遠小学校が大成町学校の始まりと記されております。

その後、地域の人々の教育に対する熱意によつて小学校はもとより中学校、高等学校が設置され、今日の大成町の教育を推進する原動力となり多くの人材を社会に送り出してきました。

合併後においてもこれまでの大成町の文化と伝統を継承し、更なる人づくりと地域発展に期待を寄せております。



町の木 オンコ（イチイ）

先達の英知と汗で創出した歴史と伝統ある郷土

「大成町」閉町にあたって！



高畑 實 議長

花田千賀志 町長

久保 一 教育長



町の花 エソヤマツツジ

大成町長 花田 千賀志

私たちは、長い間「大成」という響きを生活の糧に古いも若きもがんばってきました。

わが郷土の生い立ちは、今から三百年前の宝永時代、先人たちは未来に夢を馳せ、アイヌ民族の先駆開拓を礎石に、大地に新たな協働の鋤を入れ、海を拓き、集落を構えたことに始まります。

明治二年八月、久遠郡は一郡九ヶ村（長磯村、貝取澗村、平田内村、湯ノ尻村、日方泊村、三艘澗村、一艘澗村、上古丹村及び太田村）となり、今年で百三十六年を迎えました。

強靱な体躯に勤勉な開拓精神が根をおろし、一生懸命に頑張る人を応援し、結果の見えないことを黙々とやり抜いてきた万里の道程、今日ある大成町を築いてこられた幾多の方々のためまぬご努力に感謝の気持ちを新たにいたします。

いま、時代の変遷により大成町は「せたな町大成区」として、新たな旅立ちをむかえております。

「平成の大合併」・・・大成町の歴史の幕が閉じても、これまで我が郷土の発展に寄与された方々の偉業と精神を永く、後世に伝え、日本海に輝ける大地の創造に向けての道しるべとなることを、一心に念じてまいりたいと存じます。